

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？必ず取り組みましょう！

自分の家がどこにあるか地図で確認し、印をつけてみましょう。

家がある場所に色が塗られていますか？

いいえ

色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、益子町からの避難情報を参考に、必要に応じて避難してください。

はい

災害の危険があるので、原則として、**立退き避難（自宅の外に避難）**が必要です。

例外

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢な建物等の上層階に住んでいる場合は自宅にとどまり安全確保をすることも可能です。
※浸水の危険があっても、以下の場合は自宅にとどまり安全確保をすることも可能です。
①洪水により家屋が倒壊または崩落してしまうおそれの高い区域の外側である。
②浸水する深さよりも高いところにいる。
③浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食料などの備えが十分にある。

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

はい

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日ごろから相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル3高齢者等避難が出たら、益子町が指定している避難所に避難しましょう。

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

警戒レベル4避難指示が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう。（日ごろから相談しておきましょう）

いいえ

警戒レベル4避難指示が出たら、益子町が指定している避難所に避難しましょう。

いずれの場合も、安全な避難経路を普段から確認しておきましょう！

避難する場合は以下のポイントを確認し安全に避難しましょう！

- ！ 警戒レベル3や警戒レベル4が出たら、危険な場所から避難しましょう。
- ！ 「避難」とは「難」を「避」けることです。安全な場所にいる人は、避難所に行く必要はありません。
- ！ 避難先は小中学校・公民館だけではありません。安全な親戚・知人宅やホテル・旅館に避難することも考えてみましょう。

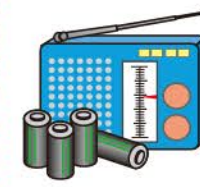
避難する際は、近所の方にも声を掛け、お互いに助け合いましょう！

非常時持出品・備蓄品

非常時持出品(例)

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 電池(多めに用意)

救急医療品



- 救急セット
- 常備薬(持病の薬など)

- 感染症対策
- マスク
 - 手指の消毒液
 - 体温計

非常用食品



火を通さずに食べられるもの

- 飲料水
- 乾パン
- 缶詰
- アルファ米
- 缶・チョコ

ライト類



- LEDランタン
- 懐中電灯
- 電池(多めに用意)

その他



- 現金(小銭多めに)
- ホイッスル(助けを呼ぶため)
- 着替え
- ウェットティッシュ
- 歯ブラシ
- スマートフォン・携帯電話の充電器
- モバイルバッテリー
- タオル
- ラップフィルム(止血や食器にかぶせて使う)
- 耳栓・アイマスク
- 紙皿・紙コップ
- 新聞紙
- ビニール袋
- 耳栓・アイマスク

各家庭に必要なもの

- 赤ちゃん用品(ミルク・離乳食・おむつなど)
- 生理用品
- コンタクトレンズ・めがね
- 入れ歯・補聴器
- リュックサック

非常時備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(最低限3日、推奨7日)を生活できるようにしましょう。

飲料水



- 飲料水(1人1日3リットルを目安に)
- 貯水したタンク

非常用食品



- お米(アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料
- ドライフーズ・缶・チョコ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他



- 生活用水(風呂などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品
- 歯みがきセット・ひげそり

避難するときはこんな格好で



帰宅困難に備えよう

大地震が発生した場合、交通機関の途絶によって自宅に戻れない「帰宅困難者」になる可能性があります。勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日ごろから準備しておきましょう。

防災グッズを用意する

携帯ラジオ、ヘルメット(防災ずきん)、スニーカー、非常用食品、懐中電灯、革手袋、地図、寒暖対策用品など。

帰宅地図を用意する

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合があるので、複数の帰宅ルートを決めておくとういでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親戚とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート

